

紋別市 医療と介護の連携の手引き



紋別市地域包括支援センター・紋別市保健福祉部介護保険課

Ver.2 (令和5年4月)

はじめに

日本では高齢化が急速に進行する中、高齢者が住み慣れた地域で安心して暮らすことができるよう医療・介護・予防・生活支援・住まいが一体的に切れ目なく提供される地域包括ケアシステムの構築が進められており、その実現には、医療と介護の連携促進も重要な要素となっています。

高齢者等が住み慣れた地域で安心して暮らすためには「医療と介護が連携し在宅生活や療養を支えることができる地域」「在宅医療と介護を一体的に提供できる地域」の体制を構築することが求められています。

紋別市の実情に合わせた医療と介護の連携体制を今後も維持し、更なる充実化を目指し、この手引きを作成しております。紋別市内医療機関と地域包括支援センターの双方が、お互いの職分や業務の内容への理解を深め、在宅生活が円滑に営めるよう共通認識を持ち、連携体制や入退院時の情報提供の内容を明らかにすることを目的に、連携体制のフローチャート、留意事項、情報連携ツール等をまとめています。

この手引きのもと、紋別市内医療機関と介護保険サービス事業所が相互に協働し、ルール化された連携を図ることで、在宅医療・介護を一体的に提供できる体制を充実させ、高齢者・家族等の生活や療養がより円滑に過ごせることを目指しています。

前回の作成、配布した手引きの掲載内容に修正、変更が必要となり、この度Ver.2を作成しました。冊子の内容についてはまだまだ発展途上であります。今後多くの関係者の方々から、様々なご意見をお寄せいただき、皆様の連携に役立てるものとしていきたいと思っております。

本手引きが、皆様にご活用いただくことで医療と介護の連携を深め、高齢者が住み慣れた地域で安心して暮らすための一助となれば幸いです。

目 次

1. 連携にあたっての基本的事項・・・・・・・・・・・・・・・・ P 1
2. 在宅【入退院を経ずに介護サービスを利用する手順】・・・・・・・・ P 2
3. 入院中【入退院を経て介護サービスを利用する手順】・・・・・・・・ P 3
4. 【具体例】・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P 4
5. 【要介護度による利用者負担額の違い】・・・・・・・・ P 5

参考資料・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P 6～

【40歳から64歳が介護保険の対象となる特定疾病】

【在宅療養を支援する多職種連携図】

【利用者情報提供票（2022年4月改訂 紋別市ケアマネジャー連絡協議会）】

【医療と介護連携手引き 周知機関一覧】

1. 連携にあたっての基本的事項

【全ての職種の皆様へ】

○ていねいな対応を心がけましょう

専門職として他の専門知識を有する他の職種と連携していくためには、お互いの専門性や各職種の立場、それぞれの背景にある制度や法律も含め理解し、ていねいな対応を心がけましょう。相手への気配り、心配りをあらわす「身だしなみ」や「言葉遣い」も大切です。

○どの程度急ぐ用件か判断して連絡しましょう

それぞれが限られた時間の中で仕事をしています。急ぐ用件でなければ、ゆっくり対応できるゆとりが生まれます。自分の要件が、どのくらい重要で、どのくらい急ぐものなのか見極めてから相手に連絡しましょう。また、担当者が不在でも相手が困らないように、代わりに対応できる体制を整えておきましょう。

○名前はフルネームで伝えましょう

利用者のお名前は間違えないようにフルネームでお伝えしましょう。生年月日なども合わせて伝えられると良いでしょう。急いでいる時などは、特に早口になりがちです。情報を共有する際には、相手が聞き取れる速さで、はっきりと正確に伝わっているか確認してみてください。また、電話でも文書でも、他の職種と情報共有する際には、共通に理解できるかを十分に確認しながら、分かりやすく説明するように意識しましょう。

【医療機関の皆様へ】

- 利用者が介護保険を利用している場合、利用者や家族に担当ケアマネジャーを確認して下さい。利用者や家族の同意を得た上で、担当ケアマネジャーに連絡しましょう。
- 「医療機関が担当ケアマネジャーを把握」又は「ケアマネジャーが入院を把握」どちらか早い方が相手に連絡しましょう。
- 在宅生活時の状況を利用者本人や家族から十分聞き取るとともに、担当ケアマネジャー等からも情報収集を行って下さい。

【ケアマネジャーの皆様へ】

- 入院が必要となる状態の前から、利用者の病歴や服薬状況、キーパーソンなどを把握し、常に入院した場合を意識することも大切です。
- 「医療機関が担当ケアマネジャーを把握」又は「ケアマネジャーが入院を把握」どちらか早い方が相手に連絡しましょう。
- 情報を提供する場合には、在宅での最新の状況を速やかに医療機関へ情報提供しましょう。また直接持参することで、顔の見える関係に繋がり、連携が図りやすくなります。

2. 在宅【入退院を経ずに介護サービスを利用する手順】

